

支部社協通信

第14号

平成23年5月1日発行
西条市社会福祉協議会
地域福祉課

支部社協紹介

今号では、壬生川支部を紹介します。

南に霊峰石鎚を仰ぎ、西に高縄の山並をいただき、東に燧灘を展望する「ふる里壬生川」は、豊饒な田園と豊かな水に恵まれた平和郷です。

周桑地域の唯一の錨地であり、商業・漁業・農業の町として発展してきました。大昔は「入り川」と書いて「にゅう川」と呼び、水害を恐れ水をほす火の意味を込めて「丹」の字を使い、「丹生川」と書き改め、さらに「丹」の字を「壬」の字に変えて、今日の「壬生川」の地名となりました。江戸時代には、壬生川港は松山藩の東の玄関として栄え、堀川の河口にかかる繁栄橋を起点に、西は松山城下に至る中山道、南は西条藩へ、北は今治藩へ延びる南北道の本街道が開かれ、堀川の魚市場では、早朝より竹笛を合図に魚の競りが始まり「今日も堀川天秤棒（さす）千本」と活況を呈しました。

昭和初期、富士紡績株式会社の誘致、公立周桑病院を設立、戦後は映画館も2館が営業する等、名実共に周桑の中心として発展、お管絃祭（おかげん）や夜市では大勢の人出で賑わい、人も町も輝いていました。ところが、時代の変遷と共に、町筋は店を閉じ、空き地が増え、昔の面影を止めないまでに変貌しています。産業では、フジボウ愛媛、フジワラ化学が営業し、大新田の海苔・漁業、明理川（あかりがわ）、円海寺地区でのメロン・イチゴ・きゅうりの施設園芸に特色があります。

壬生川支部

支部長 佐伯 秀雄



「目に青葉山ほととぎす初鯉」の好季節になりました。地域の人たち、支部社協福祉推進員のあたたかい協力、加えて有能な事務局のおかげで種々の活動が円滑に進められていること、誠に有難く感謝しています。

壬生川支部は地域福祉活動の向上を図り、福祉サービスを必要とする人々が住み慣れたふる里で、安心して生活できるような地域づくりを目標に、次のような活動をしています。（1）ふれあい・いきいきサロン事業（7サロン）（2）独居老人見守り事業（3）敬老会、敬老の家事業、敬老会は約50名の協力員により実施、敬老の家は、前期はホテルユニバースで、後期は公民館で民生・児童委員や有志が趣向を凝らした演芸をはじめ、歌・舞踊・三味線・詩吟・お話等目新しいイベントを実施（4）在宅介護者の会事業（5）青少年健全育成事業、小学校と提携して壬生川校区ふれあいウォーキング大会を実施（6）交流研修事業、年1、2回程度県内・県外との交流研修を資料を交換して行う（7）視察研修事業（8）「社協壬生川支部だより」の発行事業、年3、4回発行、現在31号を発行済み。今後も住民のニーズに応える事業を推進したいと思っています。

27支部位置図



壬生川支部

1 玉津	8 橋	15 多賀	22 丹原
2 飯岡	9 氷見	16 壬生川	23 徳田
3 西条	10 加茂	17 国安	24 田野
4 神拝	11 大保木	18 吉岡	25 中川
5 大町	12 市之川	19 三芳	26 小松
6 神戸	13 周布	20 楠河	27 石根
7 禎瑞	14 吉井	21 庄内	

壬生川区はこんなところ

■基本情報（平成23年3月末現在）

人口 : 5,271人
世帯数 : 2,248世帯
自治会数 : 41



施設等 : 公民館、北星会館、壬生川小学校、西警察署、東予壬生川郵便局、シルバー人材センター、周桑病院、ベストケアデイサービスセンター 等

■地場産業

農業（稲作、きゅうり、メロン、いちご等）、漁業、水産業（魚介類、海苔）、フジボウ愛媛、フジワラ化学 等

■名所等

鷺森（さぎもり）城址、菅原道真公上陸地、河野井戸、松山藩の米蔵の跡、一色東洋塾と金子一堂の宅跡、繁栄橋と常夜燈、一色耕平の宅跡、保内八幡神社、宇賀神社、鷺森神社、藤森荒魂神社、覚法寺、本源寺、興照寺 等

■伝統・行事等

とうとうさん、たのもさん、柳のお天皇さん、夏越、お管絃祭、北星会館ふれあい祭り、親子凧作り、市民運動会、高齢者芸能大会、公民館学級作品展・芸能発表会、レクバレー大会、小桜流舞踊発表会 等





自慢の支部事業

今回は、高齢者支援主要事業のひとつである「まごころ配食サービス」を紹介します。

平成3年から壬生川支部等の協力を得て「壬生川婦人ボランティア しらさぎ(会員20名)」が、独居高齢者と寝たきり介護者家族へ年4回の配食サービスを行っています。

平成11年度からは年2回、壬生川小学校5年生(平成20年までは6年生)の児童約65名がこの活動に加わって一緒に配達を行い、笑顔とさわやかな挨拶と元気を届けています。

また、配食で使用しているお米は地元の明理川生産者グループ「柳水会」から贈られた物です。

- | | |
|-------|--|
| 1 事業名 | まごころ配食サービス |
| 2 目的 | (1) 高齢者等への慰問と激励、安否確認を兼ねた友愛訪問
(2) 平成11年度からは、6月と11月の年2回、壬生川生涯学習推進事業及び小学校の総合学習の一環として小学5年生が加わり、自分たちの住む町の独居高齢者や寝たきり高齢者の状況や、その方たちに関わっている地域の人たちの存在を知ってもらい、自分たちに何ができるか、何をすべきかを考える貴重なボランティア体験学習の場となっている。 |
| 3 対象者 | 75歳以上の独居高齢者、寝たきり高齢者等を介護している家族(約150世帯) |
| 4 協力者 | 支部社協、民生児童委員、公民館、壬生川小学校、公民館協力委員(車10台準備) |

平成22年11月24日(水)「まごころ配食サービス」に参加する壬生川小学校の5年生(65名)が壬生川公民館に集合。「壬生川婦人ボランティア しらさぎ」のメンバーが心を込めて作った赤飯を持って、19のグループに分かれて出発し、児童たちが作った「絵手紙メッセージ」を添えて、配っていきました。

どこのお宅でも、笑顔で迎えていただき、喜んでいただきました。

児童たちは、「笑顔であいさつができました」「すごく喜んでくれたので、うれしかった」「赤飯を喜んでくれたことで、自分も勇気をもらいました」「ボランティアをすることは、他の人に役立つと思いました。日頃からボランティアをしたいと思います」「手紙を喜んでもらえたので、また、手紙を書きたいと思いました」等の感想を発表してくれました。

高齢者からは、毎回感謝の声や手紙が寄せられており、「『少年の笑顔のお辞儀風みどり』植田も日に日に色を濃くして、みどりが一面に広がっています。育ち盛りの元気な生徒さんにお目にかかれてうれしく思います。『少年よ大志を抱け』と言われているが、けんじ君はどんな夢を持っているのかな。どうか健やかに、心豊かに、枝葉を伸ばして大きな大きな樹になってください」他の高齢者からも、「去年の手紙も大切に持っている」「児童たちの笑顔とさわやかなあいさつがとても嬉しかった」「絵手紙を額に入れて飾っている」等、児童との交流を喜ばれています。

参加した児童たちは、高齢者との交流を通じ、今後、自分たちに何ができるかを考えていくことにしています。

～ 出発式 ～



～ みんなで一緒に ～



～ 絵手紙メッセージ ～



～ 災害たすけあい義援金について ～

3月11日に発生し、東日本を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災から約2ヶ月が経ちますが、被災地の早期復興を願った人的・物的・経済的支援が行われ、今後も継続的な支援が必要となります。

本会も共同募金会と連携し、募金箱を各福祉センターに設置し、市民の皆様にご協力をお願いしていますが、皆様から寄せられた善意は共同募金会を通じて、被災者の支援に活用されます。

様々な形でご支援いただきました皆様には心よりお礼を申し上げますと共に、一層のご協力をよろしくお願いいたします。

なお、募金活動は9月30日まで継続して行います。

～ 各申請書締切日 ～

次の書類は6月末日が締切日ですので、ご協力をお願いいたします。

- 1 支部育成事業助成金交付申請書
※前年度の支部育成事業実績報告書の提出もお願いいたします。
- 2 ふれあいベンチ設置申請書
- 3 むくもりボラ推進員の推薦書

※申請書等は各支所へご提出ください。